

市では、環境への負荷の少ない持続可能な社会の構築に向けて、これまでに家庭ごみの12分別収集などの取り組みを進め、市民のみなさんの協力により、ごみの減量・資源化に成果をあげてきました。

しかし、地球温暖化をはじめとする環境問題への対策の強化が求められており、市のごみ処理においては最終処分場の確保やクリーンセンターの老朽化などの問題を抱えているため、さらにごみの減量・資源化を進める必要があります。そこで、3つの新たなプランの検討を始めます。

問712-6317循環型社会推進課

ごみ処理の問題

豊かな環境と限りある資源を次世代に引き継ぐために

さらなるごみの減量・資源化に向けて

本市には、ごみの最終処分場がありません

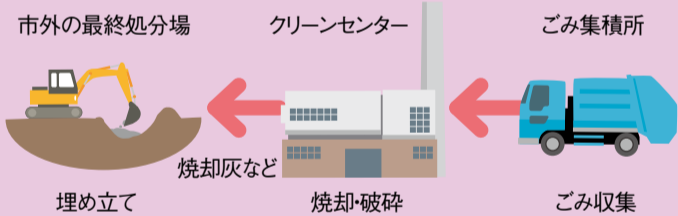


市外の最終処分場

原発事故に伴う放射性物質の影響で焼却灰の受け入れを一時ストップした処分場もありました。

ごみの焼却灰

私たちが出すごみはクリーンセンターで処分しても焼却灰などが発生してしまいます。これらの多くは、秋田県や山形県など市外にある最終処分場で埋め立てられています。このような埋め立て処分は、処分先の自治体や住民の理解のもとに成り立っていますが、いつまでも処分先を確保できるとは限りません。そこで、ごみの減量に努める必要があります。



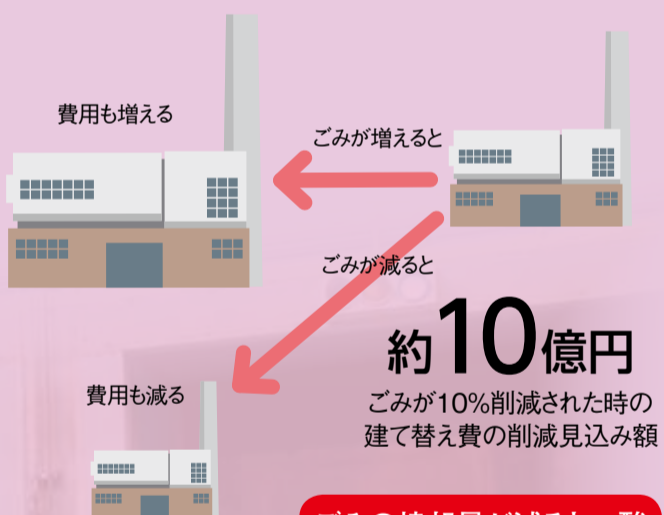
約5億円 1年間に焼却灰などの処分にかかる費用
約1万6千トン 1年間に処分する焼却灰などの量

クリーンセンターの建て替えが迫っています



▲平成35年度末に稼働終了予定のクリーンセンター

クリーンセンターは老朽化が進み、あと9年で稼働を終了する予定です。建て替えを始める前にごみを減量すれば、施設の規模が小さくなり、建て替え費用や運営費を減らすことができ、将来世代の負担も減少します。



ごみの焼却量が減ると二酸化炭素の発生も減り地球温暖化防止にも役立ちます。

分別排出が不十分です

燃やすごみに、紙類やプラスチック製容器包装類などの資源物が約3割も混入しています。また、一部では指定ごみ袋を使用しないなど、ごみ排出のルールが守られていません。

危険物が分別されずに排出されたため作業員の怪我や爆発事故が起きたことがあります。

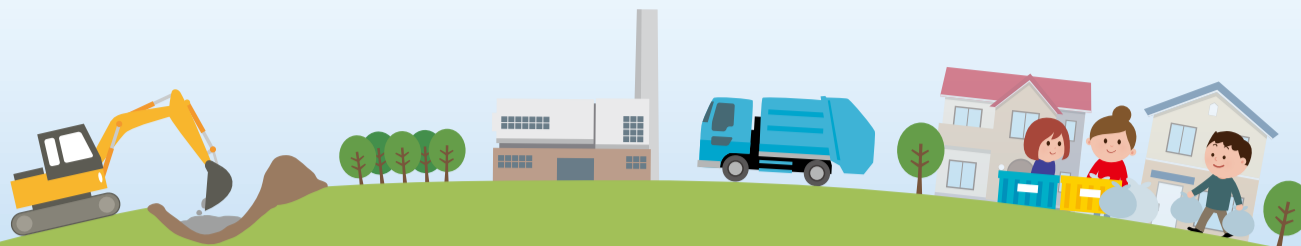


▶分別が不十分のまま捨てられたごみ



約3割 (平成25年度)

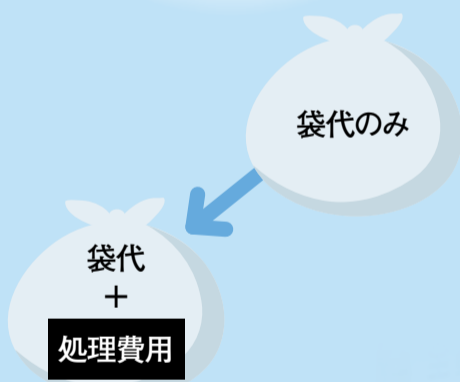
資源物が燃やすごみに混入されている割合



そこで検討を始める3つのプラン

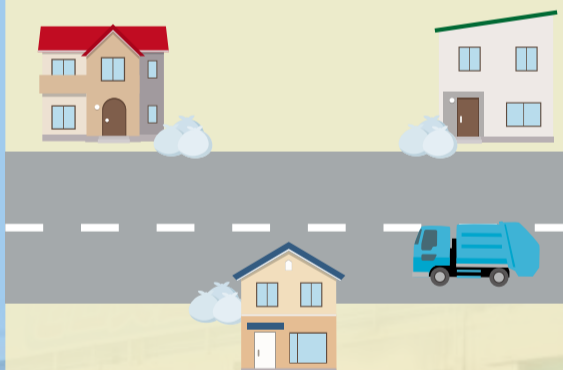
家庭ごみの 有料化

ごみを出す量に応じてごみ処理費用の一部を本人が負担する制度です。ごみの減量・分別の意識の向上が期待でき、全国の約6割の市町村が実施しています。



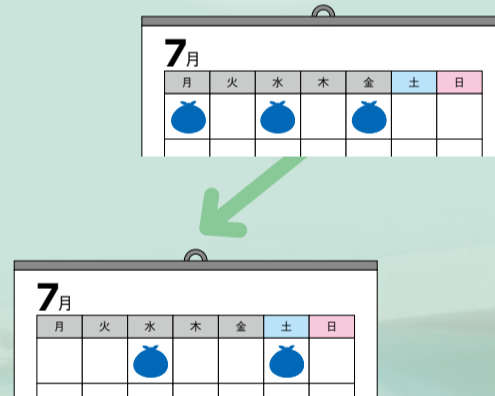
戸別収集の 導入

建物ごとに、ごみを収集する戸別収集方式は排出のルール違反の減少が期待されます。また、ごみ排出場所が近くなることで、高齢者のごみ排出の負担の軽減にもなります。



ごみ収集 回数の削減

ごみを排出できる機会が減ることによって、ごみを減量しよつとする意識の向上が期待されます。



みなさんのご意見をお聞かせください

市は、この3つのプランを検討するため、今後、住民説明会やeモニター制度、パブリックコメントなどで、みなさんからのご意見を募集します。一緒にごみの減量・資源化を進め環境への負荷の少ない持続可能な循環型社会の実現を目指しましょう。

また、この3つのプランを含め計画的なごみの減量・資源化及び適正処理の推進を図るために、市川市一般廃棄物(ごみ)処理基本計画(いちかわじゅんかんプラン21)の改定を行いました。計画書は、循環型社会推進課、(市)市政情報センター、中央図書館、行徳図書館、大野公民館図書室、男女共同参画センター及び市公式Webサイトで閲覧できます。

